

研 究 主 題	<p>自ら考え、自分の思いを的確に伝えることのできる子どもの育成 ～「生きる力」を育む算数・道徳授業づくり～</p>	<p>領 域 ・ 教 科</p> <p>算数・道徳 (1/3 年次)</p>
------------------	---	---

1 学校教育目標との関連

<p>本校では、「自ら考え、正しく判断し、心身ともに健康で、実践力のある児童の育成」を学校教育目標としている。また、今年度は「一人ひとりが自分の成長を実感し向上する、らしさが際立つ学校を創る。」を重点目標として、教育活動全般を通して取り組んでいる。今現在の本校の児童に必要な力は、「学びの主体性・多様性・協働性」である。また、これからの子どもたちに必要となるのは、「生きる力」を育むことである。それらを持った児童の育成を実現するために算数と道徳の授業づくりを通して、研究主題に迫っていくところである。</p>	<p style="text-align: center;">学 校 の 教 育 目 標</p> <p>(1)何事にも進んで取り組むやる気のある子ども (2)最後までやりぬく、ねばり強い子ども (3)丈夫な体と強い意志をもつ子ども (4)情緒豊かで、思いやりのある子ども <本年度の重点教育目標> 一人ひとりが自分の成長を実感し向上する、らしさが際立つ学校を創る。</p>
--	--

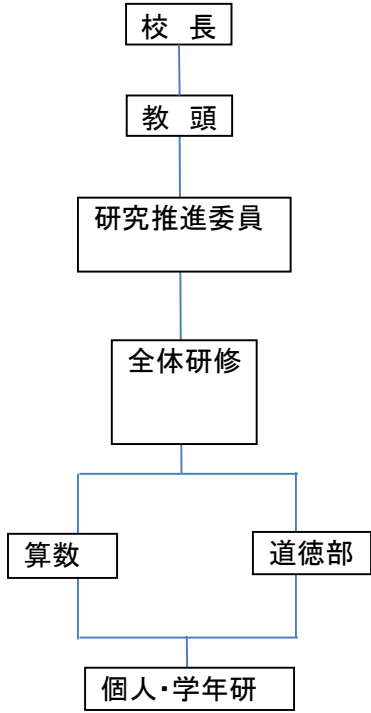
2 主題について

<p>昨年までの研究では、国語科を中心に、確かな読みを通して自分の考えを豊かに表現する力が高まる授業を目指し、「自分の考えが思いつく」「思いついたことを書く」ことができるという児童の実感につながるなど、一定の成果をあげた。しかし、「学ぶ意欲を高めること」「主体的に学ぶこと」「豊かな表現で自分の考えを伝え、多様な考えを生み出すこと」「みんなで考え話し合うこと」「話し合った結果をまとめること」などの課題も出た。そういった課題をふまえ本校では、算数科の授業実践や平成30年度に完全実施される特別の教科「道徳」に対応するための取り組みを通し、各教科の授業力向上につなげ、更なる学力向上を図りたいと考える。また、算数・道徳を中心とした主体的・対話的で深い学びとなるような授業づくり等、理論面・実践面の両面からの追及により、本校の子どもたちに考え議論する力とともに思考力・判断力・表現力を養い、「生きる力」を育み、新しい時代に生きる児童の育成ができると考え、本研究主題を設定した。</p>	<p style="text-align: center;">実 態 把 握 に つ い て</p> <p>○児童生徒の実態把握</p> <p>1 行った ・話し合い ・KJ法 ・<u>アンケート</u> ・客観テスト ・その他()</p> <p>2 行っていない</p> <p>○保護者・地域の実態把握</p> <p>1 行った 2 <u>行っていない</u></p>
--	--

3 前次(前年度)研究との関連について

<p>前年度までは、多様な方法で音読を試み、読みの手立てを用いた効果的な読み取りを中心に研究を進めてきた。 また、一人学びを大切に、ノートやワークシート、教材への記入など、その学びへの手立ても授業づくりに生かしてきた。 今年度は、昨年までの研究で課題となった「伝える」ことに着目した。算数科と道徳科の授業を通して子どもたちの伝える力を伸ばしていきたいと考える。子どもたちの多種多様な考えを引き出すために、授業スタイルの確立や書くことを用いた思考の整理。多様な表現方法、交流方法を用いて児童の表現力を伸ばしていきたい。同時に授業の振り返り(感想や項目別評価など)を行うことで、1時間の中で何を学んだのかがわかる授業づくりを目指していきたい。</p>	<p style="text-align: center;">前次(前年度)研究の評価</p> <p>1 行った <u>研究の評価として</u> ・学校評価として ・小中連携の成果として</p> <p>[方法]</p> <p>・<u>話し合い</u> ・KJ法 ・アンケート ・その他()</p> <p>2 行っていない</p>
---	---

研 究 仮 説	<p>① 子どもに身に付けさせたい力を意識した授業スタイルの定着を目指すことで、学習の見通しをもち、主体的に学ぶ力を育てることができるだろう。 ②自分の思いや考えを持つことができる手立てを構築することにより、子どもたちが自分の考えを伝え、学びを深めることができるだろう。</p>
------------------	---

研究の計画	研究の組織
<p>○年次計画</p> <p>1年次(平成29年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の樹立(研究主題・研究仮説・研究内容) ・理論研究と授業実践 <p>2年次(平成30年度)本年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究仮説の見直し・改善 ・授業実践の検証・改善 <p>3年次(平成31年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究仮説の見直し・改善 ・教育実践発表会の実施 ・授業実践の検証・改善 ・研究のまとめ <p>○今年度の計画</p> <p>4月 年間研究計画</p> <p>5月 理論研究</p> <p>6月 研修係研究(提案)授業・成果と課題の交流</p> <p>8・9・10月 校内授業研・成果と課題の交流・実技研修</p> <p>11月 成果と課題の交流</p> <p>1月 研究のまとめ</p> <p>2月 研究のまとめ・実技研修</p>	 <pre> graph TD A[校長] --> B[教頭] B --> C[研究推進委員] C --> D[全体研修] D --> E[算数] D --> F[道徳部] E --> G[個人・学年研] F --> G </pre>

研究内容	
<p>主な内容</p>	<p>① 授業スタイルを定着させるための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の適切な設定とまとめの工夫 ・振り返りの時間の確保とその方法の工夫 ・学んだことが見える板書の工夫 <p>② 自分の思いや考えを伝えるための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びを深めるための交流場面の工夫 ・ノートやワークを活用した話し合い活動の工夫 ・相手や場面を意識した話し方の工夫 <p>③ 検証方法の工夫・改善</p> <p>④ 発問・指示や視覚提示の工夫</p> <p>⑤ 家庭学習との連携</p>
<p>キーワード</p>	<p>授業スタイルの定着)(交流場面の工夫)(自分の考えを伝える</p>
<p>発表予定</p>	<p>公開研究会()月()日 紀要発行予定(ある・ない)</p>
<p>備考</p>	